

日本経済と吟醸酒

山形商工会議所常議員
(商業第一部長)
小嶋 信一



山形市内に日本中から選りすぐった吟醸酒を出す店がある。特に鑑評会出品酒は特筆物が多く、それゆえの常連客が多い。店主は変わり者だが客にも変わり者が多く、類は類を呼ぶことを実証している。その一人に東京の友人がいて、先日もわざわざ飲みに来てくれた。いつもは酒の評論に終始するのだが、この日は珍しくも日本の行く末が話題となった。

「確か4月に非正規雇用者の比率が40%になったと報じられた。リーマンの直前は30%だったのに」

「急劇な円高が原因だ。リーマンの直前は円が1ドル110円だったが、それから30円も上がってしまった。それで、生産拠点の国外移転が加速しているが、益々雇用が減少することになる。それに、円高で輸入品が安くなったので、国内

の産業はさらにコストを下げるため人件費を下げざるを得なくなった。だが、円高は今に始まったことではない。1985年のプラザコード以来二十数年続いている。それがデフレスパイラルの原因だ」

「それに、日本は人口が減少し始めた。それは需要が基本的に縮小するということだ。低価格が需要を拡大しコストを下げ、さらに低価格で需要を拡大するという再生産は成り立たなくなったのに、相変わらず無価値な価格競争から抜け出せないでいる」

「これからは付加価値主義に変らなければならない。人件費は付加価値の中から支払らわれているのだから、安く売る努力を付加価値を生む努力に変えることが必要だ。ところで、この店を出す酒は付加価値ということを理解するにはうってつけだね」

「付加価値を生む努力は民間の仕事だが、円高の解決は政府の仕事だ。思い切った円安政策が必要だろう。米国の消費者物価は1980年頃から上がり続けて、デフレの日本との差が大きく開いてしまった。その差が為替レートの差になっている。さらに、リーマン以降、急激にウオン安が進んで、日本企業の努力の範囲を大きく超えてしまった。このままでは危ない。インフレにすれば円安に向かい、国内生産が増えるだろう。雇用が増え消費も増える。企業業績が向上し法人税や所得税等の税収も増える。ちなみに税収の85%は消費に関連する項目だ。インフレにすれば公債の返済も楽になるはずだ」

「根本的な原因は日本人の自信と誇りの無さだ。だから毅然とした態度が取れない。それらを取り戻すには、日本独自の立場で歴史を検証し教育しなければならない。それで初めて外交、安全、経済を律することが出来るのではないか」

吟醸酒の味は、少し酔いが回ってからのほうが判別しやすい。ただ、この種の話は酔うにつれて大げさになり、かつ理論的破綻を来すきらいがあるが、それもやむを得まい。今年の新酒は苦が渋がしっかりしていて総じて出来が良いようだ。秋の熟成期が楽しみだ。

オビサン(株) 代表取締役社長